



長和の見どころ 詰まったかるた

あ 新しい長和の特産ダツタンそば

う 動かない山車が有名おたや祭り

長和町の活性化を目指す「山村再生プロジェクト」に取り組み東京農業大（東京）国際食料情報学部が学生たちが、町の名所や祭事などを題材にした「長和郷土かるた」を作っている。すでに手書きの試作品が完成。町内に採掘跡がある黒耀石や特産のダツタンソバなど、学生の目から見た町の魅力や誇れるものを盛り込んだ。町職員らと内容を確認し、修正後に印刷して町内の小学校などに配布予定だ。

東農大生が取り組み 試作品完成

町と東京農大は2008年度から、遊休農地の活用や新商品開発などで連携している。12年度には、学生の提案を実現につなげようと、学生でつくる「山村再生プロジェクト学生委員会」に、「自然・観光課」「特産品課」など五つの課を設け、分担してさまざまな角度から地域おこしに取り組んでいる。

かるたは「地域交流課」かるた係（4人）が手掛けた。住民たちにあらかじめ地元を誇りを持ってほしいと、1年ほど前に準備を開始。委員会のメンバーにアンケートをして、名所や祭りなど町が誇れるものを選んだ。3月に卒業した男子学生が絵札と字札を手書きした。

「新しい長和の特産ダツタンそば」「動かない山車が有名おたや祭り」「江戸からの歴史をつなぐ中山道」…五

長和町特産のダツタンソバなどを題材にした「長和郷土かるた」と、かるた係の学生

十音の「あ」から「ん」までの46枚あり、地元で伝わる「立岩和紙」、町イメーシキョラクター「なっちゃん」の札も作った。
かるたを入れる箱などには、立岩和紙を使いたい考え。学生委員会の地域交流課長の中優月さん（22）は「遊びながら、世代間で交流してほしい。今年中に完成させて、かるた大会も企画したい」と意気込んでいる。

長和町

東京農大との連携「山村再生プロジェクト」

学生と地元住民が一体となった活動に成長！

実習ではヒマワリ種を植える



植え方のアドバイスを聞く学生たち

長和町と東京農業大学 が連携して進める「山村

再生プロジ

エクト」は

このほど、

6月の実習

を3日間に



ヒマワリ油を手に話す古川さん

わたり町内の圃場などで実施。大学生16人に丸子修学館高校生徒11人も参加し、学生と地元住民が一体となった活動に成長した。同プロジェクトは今年で6年目になる。長久保町民センター集会ホールでは、平成25年度活動報告会を開催。

その後の実習では大門・鷹山地区の鳥獣被害防止柵設置作業、大門・湊城圃場の油糧用ひまわり播種、長久保・芹沢圃場の草刈り、古町・立岩地区の長和バイパス花壇整備と、それぞれのプログラムで3日間取り組んだ。

期間中の7日午後はカタチ作り実習として、油糧用ひまわりの播種を学生16人と生徒6人が体験。整備した山間部の遊休荒地・野々入地区の600坪に、食用ヒマワリ種「春りん蔵」を畝に80㎡間隔で植えた。

ひまわりプロジェクト・古川直孝さん(64)は「昨年みなさんが植えてくれたヒマワリから、食用油ができています。栽培を広め、使ってもらえた

ら嬉しい」と、ヒマワリ油を手で紹介。25㎡大の花7個ほどから300ccが収穫でき、昨年はヒマワリ油の瓶詰め300cc150本と、1畝入り18本になったという。

ヒマワリの種を手にした学生は「こんな小さな種から大きな花になるなんて感激。油も味わいたい」と話しながら、ていねいに植えていた。長和町の担当者は「県の地域発元気づくり支援金で搾油機も購入した。年間計画に組み込んで、生産とともに販売についての知恵をもらいながら、生産振興につなげるものづくりにしていきたい」と話していた。

完成したヒマワリ油を手
にする東京農業大の学生



長和町の住民有志と東京農業大（東京）の学生たちが、町内の遊休農地で育てたヒマワリで作った食用油がこのほど完成した。栽培は初めての取り組みで、300リットル入り約150本、350リットル入り約180本、1リットル入り18本分になり、保護者らに配った。残っている1本（350リットル）は町役場に置いて活動を紹介する計画だ。

町民と学生らは昨年度、町内の13カ所計約3・5畝の遊休農地でヒマワリを栽培した。昨年9月に手作業で種を取り、長野市と

丹精ヒマワリ油完成

長和町民と東京農大生 栽培

富士見町の施設に依頼して搾油した。同大国際食料情報学部4年の田崎萌子さん(22)は「雨の中で種をまき、手作業で種を取ったので完成した時は感動した」と話す。

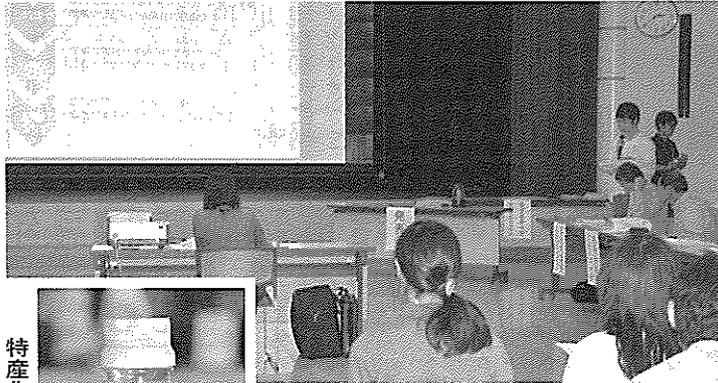
本年度は、学生たちが今月上旬に同町大門の鷹山地区で種をまいた。昨年度借りた遊休地で稲作をする人がいるため、栽培面積は減る見通しという。県の「地域発元気づくり支援金」の補助200万円余と、町が本年度一般会計当初予算に盛った99万円円で搾油機や種を購入する予定だ。

東京農大生「ひまわり油」特産化などに協力

長和「山村再生プロジェクト」

東京農業大
学が長和町な
どと連携し町
内での実習を
地域振興に役
立てる「山村
再生プロジェクト」の平成

26年度「地域活性化の
ための東京農業大学教
育支援協議会」清水
賢一会長が「このほど、
長門町民センターで開
かれた。
同町や町内農業団体、
林業団体、商工団体代
表、連携する丸子修学
館高校生徒らが参加。
特産品研究や地域交流



山村再生プロジェクト学生委員会の報告



特産化に力を入れるひまわり油

など役割を分担する農
大「学生委員会」が昨年
度の実績や本年度の活
動方針などを報告。町
が特産化に力を入れる
ひまわり油の振興など
に力を入れる今後の取
り組み方が見えてきた。
これまで特産品開発
では、学生がスモモの
化粧品や花豆納豆を提
案し、商品化も進んで
いる。

今回、学生委員会の
特産品課は10月に開業
予定のダツタンそばレ
ストランのメニュー開
発など昨年度の取り組
みを報告。本年度は大
門鷹山を中心に町内約
3・5aに栽培するヒ
マワリの搾油による「ひ
まわり油」の特産化な
ど、町が力を入れる取
り組みの研究を深め、
応援していくことなど
が示された。ひまわり
油は350ミリリット
ルペットボトル入り
製造されており、近く
販売を始める。

また同委員会地域交
流課は、地域を誇りに
思ったり愛着を深めて
もらう狙いで、昨年試
作した郷土カルタを本
年度は製品化して小学
校などに配布し、異世
代交流などのカルタ大
会を考えていることを
報告した。